

平成30年度 県立石岡第二高等学校自己評価表

目指す学校像	◇心身ともに健康で、礼儀正しく、明るく積極的な生徒を育成する学校 ◇生徒一人一人が、確かな学力を身に付け、個性や適性を知り、適切な進路を実現する学校 ◇地域社会と連携し、地域社会に開かれた学校 ◇日本の伝統文化に親しむとともに、国際感覚を併せ持つ生徒を育成する学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
○茨城県教育委員会「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」重点校の指定を受け、特色ある学校づくりをさらに推進した。今年度から強化校となることから、事業を精選し、様々な体験活動や講習などを通し、生徒一人一人の適性に応じた職業観の育成を目指す。 ○「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」を大切にする授業を展開するために教職員の研修を進め、学校全体で「わかる授業」を目指し成果を上げることができた。さらに生徒の家庭学習につながるようにしたい。 ○進路ガイダンスの充実により、生徒の進路希望をほぼ達成することができた。進路意識の高揚を図り、生徒の主体性を高める体験的な活動の推進も必要である。 ○制服や頭髮の指導については、地域からも評価されている。規範意識・モラルのさらなる向上を図っていく必要がある。 ○地域のボランティア活動に参加する生徒が増えてきており意識も高い。部活動加入生徒数が減少傾向にある中、部活動活性化に向けて手だてを講じていきたい。 ○日本の伝統文化に触れる機会を増やすとともに、国際交流活動が実現できるよう努力する。 ○学校ホームページの充実を心がけ、閲覧数を増やすことができた。チラシやポスターなどの作成の他に学校の認知度を上げる広報手段を考える必要がある。	筑翠ルネサンス事業の位置付けを明確化して実施し、日本の伝統文化体験や国際交流体験活動を定着させる。	①教職員による手づくりの体験活動や講習などを通して、生徒一人一人が達成感や充実感を持てるようにする。 ②日本の伝統文化に対する生徒の理解を深め、ルールを守り責任を重んじる態度を養う。 ③国際交流事業を継続させ、積極的に生徒の参加を促す。	A
	基本的生活習慣の定着と規範意識やモラルの向上を図る。	④教職員自らが率先垂範し、笑顔でのあいさつやマナー、清掃、整理整頓など基本的生活習慣の定着に努め、道徳の授業や道徳プラスの授業等、規範意識やモラルを高める取組を充実させる。 ⑤服装指導や生活指導を計画的・継続的にを行い、生徒に自律的で責任ある生活習慣を身に付けさせる。 ⑥生活習慣・しつけなどの家庭の教育力の重要性について啓発し、その向上を図る。	A
	他の人を思いやることができ、周りに配慮することができる生徒を育成する。	⑦教職員は、生徒一人一人の状態や特性を踏まえ、教育的ニーズに応じた配慮や支援を継続して行い、生徒に範を示す。 ⑧困っていることや配慮してほしいことを、自らの方法で相手に伝えられるよう、生徒のコミュニケーション力を育成する。 ⑨不登校・いじめ等の未然防止と解消に向けた生徒の自主性・自立性を育成する。	B
	授業の工夫改善を行い、生徒の学力及び体力向上を図る。	⑩「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」を意識した授業の実現に努め、授業の活性化を図る。 ⑪体力づくり推進委員会を設置し、体育・スポーツ活動と体力の向上に取り組む。 ⑫授業研究や校内研修を積極的に進め、授業力の向上に努めることで、生徒の学力及び体力向上を図る。	B
	部活動やボランティア活動などの体験的な活動への積極的な取組を行う。	⑬教職員自らが先頭に立ち、部活動を活性化と充実を図るための取組を力強く進める。 ⑭生徒会の主体的な活動を促し、活動の活性化を図る。 ⑮スキー教室やボランティア活動などの体験的な活動への参加を促す。	B

別紙様式2（高）

		「なりたい」を「なる」に鍛える職業観・勤労観を育成し、生徒の希望進路を実現する。	⑯体系的なキャリア指導計画に基づき、生徒が目指す進路に関して理解を深めることで、進路意識の高揚に努める。 ⑰従来のインターンシップや大学・専門学校・企業などの見学を検証し、生徒の主体性をさらに助長するように努める。 ⑱生徒の進路選択のためのガイダンスや面談の充実を図り、個に応じた進路指導を一層推進する。	A	
		学校図書館の充実を図る。	⑲学校図書館を自学自習できるように整備し、生徒の確かな学力や豊かな感性を育む場として活用する。 ⑳図書主任が中心となり、生徒と本を繋ぐ施策を策定し、実施に向けた教育計画を立案する。	B	
		保護者の声や地域を真摯に受け止めて、広報活動の充実を図る。	㉑教職員一人一人が広告塔としての意識を持ち、責任を持って学校の教育活動及び生徒の学習活動の成果を広報するとともに、生徒の確保に努める。 ㉒動画配信なども活用して、ホームページをさらに充実させ、学校の教育活動及び生徒の学習活動の成果を常に発信する。 ㉓一人でも多くの県民に、本校の教育活動を知ってもらうために、新たな広報のツールを検討し実施に努める。	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
教務	教育課程の適切な運営と授業の充実を図る。	生徒の実態に合わせ各分掌と調整しながらよりよい教育課程を作成し、適切に運営する。		B	B 新学習指導要領の実施に伴う新教育課程の策定に向け本校の教育方針を十分に検討していく。 主体的対話的で深い学びについて教科内の授業公開や校内研修等を実施し授業改善を継続的に行う。 観点別評価に重点を置いたシラバスの改訂を行う。 緊急情報メールや学校HPの利用を拡充し学校から校内外への情報発信を充実させる。
		新学習指導要領の導入を見据え、「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた授業を展開できるよう、研修報告の場を設けるなどの校内研修を実施する。		C	
		各学年、教科ごとのシラバスを作成し、有効活用を図る。		B	
	適切な学校行事を作成し、教育活動の円滑な実施に努める	各分掌と連携をとりながら行事の精選を行い、バランスの取れた年間行事計画を作成する。		A	
		校務支援システムによる成績管理システムを整備し、全職員が円滑に運用できるようにする。		B	
		成績一覧票、通知表等の処理を円滑、確実に行う。		A	
		奨学金等に関する広報と事務処理を的確に行う。		A	
	広報活動を充実させる。	本校への理解を深める機会として夏季休業中の体験入学を2回、秋の学校公開、つくば市での進学フェアへの参加、中学校訪問等を行う。		A	
		各分掌と連携しながらホームページを迅速に更新したり、学校案内パンフレットの内容を充実させたりすることで、保護者や地域、受験生に石岡二高の校内外の取り組みを広く伝える。		A	

別紙様式 2 (高)

進路指導	各学年の進路指導計画に基づいた職業観・勤労観を育成し、生徒の希望進路を実現する。	1 学年：進路講演会，職業人との懇談会等を通して進路意識を育成する。	B	B	進学クラス以外の生徒が、課外やオープンキャンパスへ積極的に参加するよう促す必要がある。また、保護者への進路関係情報の発信および一般入試に対応する学力育成が課題である。
		2 学年：進路別見学会，インターンシップ，進学相談会参加等を通して個々に合った進路意識を明確化する。	A		
		3 学年：1・2 学年で獲得した進路に対する知識・経験を基に，個々の進路を実現させる。	A		
	学力を養成し，大学・専門学校の進学率を高める。	土曜課外，平常課外授業等へ積極的に参加させ，基礎学力・応用力の向上を図る。	A		
		大学・専門学校のオープンキャンパスへの積極的な参加を促すとともに，大学への進学・入試に対して早期の意識づけをする。	B		
		校外模試を積極的に活用し，生徒一人一人の学力をきちんと共有・分析し，よりよい進路選択ができるよう指導する。	B		
生徒指導	基本的生活習慣を定着させる。	服装指導や生活指導を計画的・継続的に行い，生徒に自律的で責任ある生活習慣を身につけさせる。	B	B	基本的生活習慣を定着させる為の指導や，服装指導において，学年間の差が大きい現状がある。細部については学年や担任の判断があつて良いが，大枠は統一したい。 心の教育について，具体的な方策を立てて取り組む必要がある。
		生活習慣・しつけなどの家庭の教育力の重要性について啓発し，その向上を図る。	B		
	心の教育を充実させる。 (規範意識とモラルの向上)	挨拶を率先して行い，礼儀や言葉遣いなどマナーを身に付けさせる。	B		
		自己を大切にし，他人を尊重する心を養う。	B		
	問題行動の未然防止に努める。	校内・校外の巡回指導を継続的に行う。	A		
		生徒の小さな過ちを見逃さない。	A		
	交通安全教育を推進する。	関係諸機関との連携を図り，交通講話などを実施して事故防止に努める。校外巡視指導や保護者との連携により事故及び防犯に関して確認事項の徹底を図る。	B		
生徒指導 いじめ防止	未然防止に努める。	いじめ未然防止のため，生徒の規範意識を高める。	B	B	教職員研修，問題行動未然防止のための積極的な生徒指導において改善すべきところがあつた。次年はこの2点について，改善する必要がある。 問題発覚後の対応については，管理職・学年と連絡を密にし，迅速な対応ができた。今年度の経験を次年度以降の指導にも生かせる方法を考える必要がある。
		生徒が教職員に相談しやすい関係を構築する。	B		
		情報モラル教育を推進する。	B		
	早期発見に努める。	生徒の発する小さなサインを見落とさず，いじめの早期発見に努める。	B		
		相談窓口を複数周知し，相談しやすい関係を構築する。	B		
	早期解消に努める。	適切にいじめの事実を確認し，被害者の心のケアをする。	A		
		加害者に対して，いじめをやめさせる指導を徹底する。	A		
		重大事件があつた場合，速やかに調査結果を県教育委員会を通じて知事に報告する。	A		
		インターネットを通じて行われるいじめの対応をする。	A		
	関係機関との連絡体制の強化に努める。	保護者と密接に連絡を取り合い，事実の掌握と早期発見・早期解決に努める。	B		
		警察，児童相談所，法務局等の関係機関と連絡体制を構築し，相談することで早期解消を図る。	A		
	教職員の研修を深める。	いじめや，インターネット環境等に関する研修や実践的研修を行い，いじめの対応方法の共通理解を図る。	B		

別紙様式 2 (高)

特別活動	生徒主体の自発的な生徒会活動を展開する。	役員を中心に、生徒の自主性を尊重した生徒会行事の企画・準備・運営に取り組む。	A	A	・生徒会役員が生徒の前で活躍する場を増やす。 ・部活動加入率向上のため、新入生体験入部の機会を工夫する。
		生徒会・各種委員会を中心に全生徒の規範意識を高める方策を検討していく。	B		
	体験活動に取り組ませる。	ボランティア活動やスキー教室を通して、豊かな人間性を育むことができるよう、体験的な活動を支援する。	A		
	部活動の活性化を図る。	入部制度や、リーダーの育成を工夫し、部加入率の向上を目指す。	B		
伝統文化 国際交流	体験活動を推進する。	体験活動の機会を設け、生徒一人一人が達成感や充実感を持てるようにする。日本の伝統文化に対する生徒の理解を深め、ルールを守り責任を重んじる態度を養う。	A	A	・体験活動は予定通り実施でき、伝統文化に対する興味関心を深められた。 ・国際交流は、海外研修・校内研修ともに充実したものになったが、参加人数の増加を図りたい。
	国際交流体験を充実させる。	生徒に海外研修への積極的な参加を呼びかけ、国際交流の場を設定する。	A		
保健厚生	生徒が学習するために適切な環境を整備する。	安全点検、環境衛生検査を実施する。	A	A	清掃用具の不足分については早めに解消する。 スクールカウンセラーとの連携を密にする。
		清掃監督の先生方や整備委員と連携し、ワックス塗布、大掃除等を行い校内美化に努める。	A		
	心身の健康の維持・増進に努め、生徒の心の居場所を提供し安らげる環境を整備する。	保健委員、福祉委員と連携し、外部講師による性教育講話と献血を実施する。	A		
		食育を推進し、体力の養成に努める。担任・保護者・SCと連携し生徒をチーム支援していく。またカウンセリングの環境を整える。特別支援を必要とする生徒を個別に支援する体制を整える。	B		
図書	生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、教育課程の展開に寄与する。	「学習・情報センター」として、学校図書館を活用した学習活動や読書活動を日々の各教科等の指導に取り入れ、生徒の思考力、判断力、表現力等を効果的に身に付けさせる。	B	B	看護系入試や推薦入試の関連図書を増やしたため、図書室利用者と貸し出し数が増えた。 調べ学習等で授業で利用しやすいように、図書の充実を図りたい。
		生徒の自学自習の場として利用の促進を図るため、環境整備に努める。	A		
		学習を関連としたコーナーを設け、生徒の利用する意欲を高める。	B		
	生徒の想像力を培い、興味・関心や豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動や読書指導に取り組む。	「読書センター」として、生徒の知的活動を増進し、人間形成や情操を養う場となるよう努める。生徒の読書習慣の形成を図るため、図書館だよりを発行する。	A		
渉外	保護者の参加意欲を高めるため、PTA活動への親しみや関心を持てるように広報するとともに家庭との連携を深める。	リクエストカードを設置し生徒の希望書籍を購入することで、読書意欲を高める。	B	B	PTA役員を中心に学校行事に参加していただいた。PTA総会出席率向上のための工夫をする。保護者の参加しやすい行事を考える。
		PTA総会や授業参観などへの出席率を高める工夫・改善、PR活動を本部役員と意見交換をしながら進める。	B		
		会員相互の交流を図る行事等を計画するとともに、年2回発行する広報誌やPTA各支部による広報活動を工夫することで本校の活動について情報を伝える。	A		

別紙様式2（高）

家政	学科のねらいを明確にして取り組む。	専門性を高めるため、コース制（フードデザインコース・ヒューマンサービスコース）を充実させる。	A	A	専門性を高めるためコース制にし、それぞれ関連する専門の外部講師による実習を行うことができた。
		課題研究（5講座）を2・3学年合同の授業とすることで、選択の幅を広げ、なおかつ専門性を深め継続してできるようにする。また、成果を発表する場を設け、保護者などにも呼びかける。	A		
	教科と家庭クラブ活動の連携を図り、生徒主体の活発な活動を促す。	家庭クラブ講習会などを年に2回以上実施し、ボランティア活動など積極的参加を促す。	B		
		ホームプロジェクトを実施し、家庭・地域との連携を図る。また、優秀者を表彰し、次年度への動機づけとする。	A		
	各種検定の資格取得を目指し体験学習の充実を図る。	放課後や夏季休業中に課外指導を行い、資格取得のための指導を充実させる。	A		
		専門教科において保育実習や介護実習などを行い、より専門的な技術を体験的に学習するための指導を充実させる。	A		家庭科技術検定の知識・技能の向上のためにも、課外等を有効活用し、生徒の意識の改善につなげていきたい。
第1学年	基本的な生活習慣を身につける。	進んで挨拶をする、学校・社会の規則を守り生活をする等、高校生としてふさわしい振る舞いが出来るように各場面を通じて指導にあたる。	A	A	チャイム前着席及び授業の準備が、徹底とまではいかなかったので、次年度には徹底させていきたい。
	落ち着いた授業態度を身につける。	授業での学習を重視し、チャイム前着席及び授業の準備の徹底、並びに授業中の離席及び退室の防止を徹底する。	B		
	心豊かな人間性を養う。	各種学校行事に積極的な参加を促し、主体的に活動できるようにする。	A		
第2学年	基本的な生活習慣の確立	挨拶の励行を図る。服装面や生活マナーなど規則正しい良好な生活習慣の確立を図る。	B	B	進路目標を明確化し、自己の将来に向かい、学習努力と生活習慣の確立を図る。
	基礎学力の向上、進路目標の早期決定	授業の重要性を理解し進路を見据えた学習意欲と家庭学習を身に付けさせる。	B		
		個に応じた適切な進路選択のために、進路別バス見学や進学相談を充実させる。	A		
	心豊かな人間性の育成	自己を確立し、他人への思いやりの大切さを教える。	A		
		修学旅行各種行事を通して、集団における規律遵守、協調性や自主性を養う。	A		
第3学年	自己の適性を理解し、進路の実現を目指す。	総合的な学習の時間等を活用して、職業意識を高めるとともに基礎学力を向上させ、一人一人が輝く活力ある学年づくりをする。	A	B	盗難がたびたび発生してしまったので、より一層の貴重品管理が必要である。
		課外や各種模擬試験に積極的に参加させ、幅広い力を身に付けさせる。	B		
	進路指導部と連携し、生徒・保護者へ進路に関する情報を伝える。	LHRや生徒面談での進路相談や学年集会における進路講話等を積極的・継続的に実施して、「なりたい」を「なる」に鍛える職業観・勤労観を育成し、生徒の希望進路を実現する。	B		
		進路指導部と連携し、生徒・保護者対象の進路（就職）説明会を計画・実施する。	A		
		進路指導部と学年・担任との連絡・会議・相談を密にし、共通理解を図る。	A		
	規範意識やマナーをわきまえた人間性豊かな社会人の育成。	笑顔でのあいさつやマナー、清掃、整理整頓など基本的な生活習慣を定着させ、服装・身だしなみを整える意識を培う。	B		
		全校・学年集会等における速やかな集合整列、移動教室の施錠、貴重品管理を徹底させる。	B		

別紙様式 2 (高)

国語	基礎学力定着の徹底を図る。	漢字・語句の基礎的な力を培い、国語力の向上を図る。	A	B	引き続き語彙力や読解力の向上に努め、進路決定に必要な能力の育成を図る。
		辞典や便覧等を利用し、様々な文章の読解力を高める。	B		
		様々な本を紹介し、読書に対する意欲を喚起する。	B		
	古典の世界に親しませ、基本的事項を理解させる。	画像や音声等を含む教材を利用し、古典の世界に親しませる。	B		
		基本的知識を定着させるとともに、文章を正しく速く読めるよう多くの文章に触れさせる。	B		
	進路を意識して、必要な教材を授業に組み入れる。	国語における一般常識的な内容については問題集等を使用して指導をすすめる。 教員間の情報の共有を大切に一人一人の生徒の指導に当たり、進路希望の実現を図る。	A A		
地歴・公民	基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習意欲を高め、主体的な学習活動を促進させる。	生徒の実態に応じた授業を展開する。小テストを実施したり、ノートを定期的に提出させたりしながら学習内容の理解度を確認する。	A	A	日本史や世界史のなかで郷土茨城との関連を探究できるよう指導方法の改善を進める。
		長期休業中に主体的に考察する課題を設定し、学習内容をより深化させ生徒の学習意欲を高める。	A		
		郷土茨城の歴史を日本史や世界史との関連の中で幅広く理解させる「郷育」を推進する。	B		
数学	生徒の学習意欲を喚起し、進路に応じた指導をする。	重要な公式を確実に身につけさせ、適用できるようにするとともに、目標を定め学習意欲を高める	A	A	1年生の習熟度別クラスを継続し、生徒の学力向上を目指す。
		課外授業を実施し、進学希望者への進路対策をする。	A		
	習熟度別授業を導入する。	(1年生普通科) 習熟度に応じて2クラスを3分割にして、学力に応じた授業を展開する。	A		
情報	知識・技能および情報の分析・評価・判断力を育成する。	タイピングを練習させる時間を定期的に設け、タッチタイピングの習得を目指す。	A	A	コンピュータの操作についてはある程度習熟させることができた。情報モラルについては、教科だけでなく達高全体の取組が今後必要だと感じた。
		アプリケーションソフトを十分に活用し、情報を効果的に処理できるスキルを身に付けさせる。	A		
	情報モラルに配慮する態度を身に付ける。	個人情報や著作権についての学習を通して、情報の扱い方を学ばせる。 インターネットに関わる学習を通して、情報社会において守るべき情報モラルについて考えさせる。	A B		
理科	基礎学力の定着を図る。	教科書に記載されている基礎的内容をしっかりと理解・定着させる。そのための計算力や記述力の能力向上もはかる。プリントや問題集などを通して、理解度や達成度を確認する。	A	B	計画的に実験(もしくは演示実験)・観察の機会を設定する。最新科学の動向に気を配り、授業に取り入れる
	実験を通して観察・探求する能力を身に付ける。	実験を通して理科の面白さを体験させ、興味・関心が湧くように指導する。実験レポートの作成により』自然科学的に考察する能力の向上を図る。実験器具の使い方や実験終了後の整理整頓まで主体的に行動できるように指導する。	B		
	理科的現象への興味と関心を高める。	自然科学としての理科を認識させ、歴史的意義や現代における役割および環境問題などへ思考が及ぶように指導する。今を生きる自分に必要な身近な学問であることを理解させる。	B		
保健体育	授業に臨むための基本的学習習慣の定着を図る。	着替え、用具等の準備を含め、迅速に行動し、時間を厳守するように指導する。	B	B	・クラスや学年によって、差があるので、指導内容を工夫して徹底する。 ・運動用具等で、効率良く授業を進める。
		授業を通ししつけの徹底を図る(指定された服装、開始・終了の挨拶、言葉遣い等)。	A		
	十分な運動量を確保する。	生徒が十分な運動量を確保できる授業を展開する。	B		
	卒業後も主体的にスポーツに取り組める能力の育成を図る。	主体的な活動場面を多くし、考える力や、コミュニケーション能力の育成を図る。	B		
		それぞれの種目の楽しさを味わえる授業を展開する。	B		

別紙様式 2 (高)

英語	基礎学力の向上を図る。	小テストを実施し、ノートやワークブックを定期的に提出させ、学習内容の理解度を確認する。	A	B	・成績不振者が出ないよう補習授業の回数を増やす ・リスニング力の向上に力を入れる ・英検受験者を増やす 5組は2年修了までに準2級、卒業までに2級取得を目標にする
		第1学年は習熟度に応じて1クラスを2分割し、少人数によるきめ細かな指導を行う。	A		
		学習内容の定着のため、放課後の補習授業や課外授業を実施する。	B		
		クラスルーム・イングリッシュや音声教材をできるだけ多く使い、リスニング力の向上を目指す。	B		
	英語の授業の改善に努める。	授業内容・方法について教科内で研究協議を行う。	B		
家庭	英検取得を促す。	英検対策課外を行い、過去問題を活用して、検定試験の対策を行う。	A	A	生活デザイン科では、分割履修をすることで、細やかな指導を行えているが、普通科においても、生きる力を身に付けさせられるような授業の展開を図っていききたい。また、体験的な講習会なども積極的に取り入れていききたい。
	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。	TTや分割履修などを活用し、生徒の実態にあった授業を工夫し展開する。	A		
	生徒の興味関心を考慮した授業の工夫をする。	実験・実習などを通して各種技能・知識の向上を図る。	A		
	作品づくりと自己評価をすることで、学習への取り組みの意欲を高める。	フードデザインコース・ヒューマンサービスコースや課題研究(5講座)では、2・3学年が合同で授業を行うなど多彩な講座を開設することによって教科内容の充実を図る。	B		
芸術	音楽	生涯にわたって音楽を愛する心を育て、自ら積極的に音楽活動を楽しむ態度を育てる。	A	A	音楽に対する愛好心は育みつつある。様々な音楽に触れることで感性を高めることができるようである。表現するための技術をさらに身につけさせたい。
		多様な形式の歌唱・器楽において、グループでの活動などを通し音楽を作り上げる喜びを味わう。	A		
		日本の音楽を通して日本の伝統文化を尊重する態度を養う。	B		
	美術	音楽に対する感性を磨く。	B	B	提出締め切り日までに作品を完成させることだけが目標となりがちになってしまう生徒がいたので、関心・意欲主体性をもっと大切に進めたい。
		問題発見・解決を念頭に置いて関心・意欲を高めながら、一人一人が輝く個性あふれる主体的な作品制作を行い、感性させる成就感を味わう。	B		
		画材の基本的な使い方を習得させ、期限内の課題提出を徹底する。	A		
		原始時代から現代までの絵画・彫刻・デザイン・映像・漫画などを鑑賞し、学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた「深い学び」の家庭を取り入れた美術表現の理解と関心を高める。	B		

※ 評価規準： 評価段階 A：十分できた B：概ねできた C：やや不十分 D：不十分